

令和4年度第4回 校長「語らいサロン」  
 テーマ 『宿題（家庭学習）について』

はじめに（自己紹介 「宿題の思い出」）

1 今日のテーマについて（校長）

- 今回のテーマ設定について
- 令和4年度版「家庭学習のすすめ」
- 「自立 自ら学び、考え、行動する人」 = 主体性の育成  
→「宿題」を廃止したい

2 宿題の功罪について

- メーテレ 「岐阜市立岐阜小学校 宿題を廃止した小学校 児童に変化が」
- 「効果的な宿題とは」 教育哲学者 苫野一徳氏（中日新聞 2021年7月29日）

夏休みが始まった。「心ゆくまで遊びたい!」と思っている子もいれば、宿題や勉強のことを考えて、憂鬱（ゆううつ）になっている子もいるかもしれない。

実は小学生に関しては、宿題に費やした時間と学習成果の相関はほぼゼロとのショッキングな研究がある。また、特に学校での勉強についていけない子どもにとって、宿題は勉強嫌いをさらに悪化させる大きな要因になっているとも言われている。

他方、中学生にとっての宿題の効果は、小学生の約2倍、高校生は、そのさらに2倍になるとの研究もある。中高生の方が、学習習慣がついていたり、より目的意識をもって学習に取り組めたりするからではないかと考えられている（ジョン・ハッティ著、山森光陽監訳『教育の効果』図書文化、2018年）。

宿題を巡っては長い論争の歴史があるが、はっきりしているのは、全員一律に、全く同じ宿題をさせる必要はないということだ。一人一人、学びのペースもレベルも異なっている。だから宿題も、それぞれに合った内容を、自分のペースで進められた方がいい。発達段階に応じて、子どもたちがある程度自分で選択・決定もできた方がいい。むしろ、その際の教師のナビゲーションやサポートはきわめて重要だ。

今後学校は、夏休みに限らず宿題をある程度個別化していったらどうだろう。「個別対応する時間なんてない」と言われるかもしれないが、先生が宿題をいちいち点検しなくても、特に学力に影響はないとの研究もある。むしろ先生が子ども同士で協働する力を存分に発揮できる環境をつくること、そして必要に応じた的確なサポートに注力することの方が、はるかに効果的であるとの研究もある。

3 宿題について、家庭学習について（意見交換）

